

小・中学生のIgA腎症の発見契機が学校検尿だった割合【平成28年度】

	A: H28年度に 初回腎生検を行 なった人数	B: AのうちIgA腎症 と診断した人数	C: Bのうち発見契 機が学校検尿 であった人数	D: Bのうちステロイ ドを含む治療を 選択した人数	E: Dのうち発見契 機が学校検尿 であった人数
合計	251	56	36	33	26
		B/A=22%	C/B=64%	D/B=59%	E/D=79%
福岡県	89	17	12	8	6
佐賀県	10	4	3	3	2
長崎県	19	4	3	3	2
熊本県	29	5	4	4	3
大分県	30	8	5	5	5
宮崎県	25	4	3	2	2
鹿児島県	25	5	1	3	1
沖縄県	24	9	5	5	5

註: 日本小児腎臓病学会の地域関連学会である九州小児ネフロジー研究会の協力を得てアンケートを行い九州各県で小児の腎生検を行なっている施設から回答を得た。

学校検尿で初めて異常を指摘された年度と腎生検を行なった年度は必ずしも同一ではない。

県の区分は施設の住所であって患者住所とは必ずしも同一ではない。

腎生検の適応や治療にステロイドを含めるかどうかの判断は施設によって異なる場合がある。